平成元・2年度

日本協会役員名簿

会長 斉藤英四郎
副会長 荒川清美
〃 立石孝雄
〃 盛田正明
専務理事 安藤純光
常務理事 塩川安賢（総務）
〃 滝口三郎（財務）
〃 竹野奉昭（国際）
〃 西村亮治（企画・リーグ）
〃 川上整司（広報）
〃 大西武三（指導）
〃 伊藤和夫（普及）
〃 大塚文雄（審判）
〃 市原則之（強化）
理事 清水　正（東ブロック）
〃 加藤雅之（中ブロック）
〃 藤田八郎（西ブロック）
〃 植村　繁（実連）
〃 中沢重夫（学連）
〃 佐野和夫（高体連）
参事 中村　崇（北海道）
〃 森　恭一（東北）
〃 中根武彦（東海）
〃 梅田幹夫（近畿）
〃 平田幸男（中国）
〃 河本武夫（四国）
〃 柳井文治（教職員連）
〃 富永　劭（自衛隊連）
監事 松本重雄
〃 大野金一

〔評議員〕

北海道 松本　博
青森 太田尚充
岩手 箱崎敬吉
宮城 高橋善幸
秋田 松田光雄
山形 五島訓二
福島 加藤岳郎
茨城 鈴木　均
栃木 高橋隆夫
群馬 高橋　潔
埼玉 遠藤健次
千葉 浮谷貞雄
東京 岡村昭二
神奈川 佐分正典
山梨 古屋　正
新潟 山田　馨
長野 柳沢民弥
富山 山口吉弘
石川 若山　博
福井 華立　要
静岡 吉田定静
愛知 田中滋章
三重 鈴木義男
岐阜 上妻忠夫
滋賀 尾本和男
京都 小西博喜
大阪 神田　清
兵庫 三浦和夫
奈良 森田正英
和歌山 尾高義彦
鳥取 松原紀機
島根 船江昭光
岡山 永井恒三郎
広島 東　昌弘
山口 藤田信義
香川 松原　忠
徳島 前田誠之助
愛媛 高橋満年
高知 酒井　満
福岡 小袋是郎
佐賀 甲斐忠義
長崎 原田国男
熊本 井　薫
大分 福田　稔
宮崎 谷川幸夫
鹿児島 堀之口貞男
沖縄 新垣　健
実連 横地宇吉
教職員 山田　計
学連 久保義雄
自衛隊 古庄昌雄
高体連 三浦　公

○各委員会名簿

▽強化委員会

強化部長 市原則之
男子強化委員長 野田　清
男子強化委員 幸藤幸司
〃 綿貫敏雄
〃 北岡大覚
〃 津川　昭
〃 早川清孝
女子強化委員長 井　薫
女子強化委員 鈴木義雄
〃 藤原　侑
〃 片岡賢司
〃 樫塚正一
〃 緒方嗣雄
〃 山崎　武

▽指導・方法委員会

委員長 大西武三
副委員長 本田娟一
委員 村松　誠
〃 高橋英次
〃 飯田信行
〃 青木宏治
〃 浅野鉦世
〃 平岡秀雄
〃 岡本研二
〃 佐藤　靖
〃 江成元伸
〃 笹倉清則
〃 小山　浩
〃 清水宣雄
〃 山内　賢
〃 杉森弘幸
〃 三輪一義
〃 永松義浩

審判部

部長 大塚文雄
委員 島田房二
〃 後藤　登
〃 清水宣雄
〃 浜田浩和
〃 小笠原久郎
〃 岡本研二
〃 酒井伸夫
〃 吉野　茂

▽広報委員会

委員長 川上整司
委員 氷海正行
〃 佐々木正徳
〃 加藤益弘
〃 石村　修
〃 鴨門義夫
〃 村上　修
〃 吉田敏明

▽企画委員会

委員長 西村亮治
委員 青木　徹
〃 稲生　茂
〃 飯田信行
〃 幸田良一
〃 内藤正美
〃 桝屋博司

第14回日本リーグ2部前期成績

男子

◇6月3日(土)　**愛知・東海市民体育館**

トヨタ車体 24（12—10、12—14）**24 日本電装**

〔戦評〕前半スタートから両チームともセットプレー中心の展開。トヨタ・君島のテクニックシュートに対し電装はサイドの回り込みに対角の45度が合わせる形で応戦。トヨタは持ち前のパワーで何とか振り切ろうとするが、電装もよく粘って一進一退、両者スピードに乗り切れぬまま12—10とトヨタの2点リードで折り返す。

後半に入ると出だしから速攻の連続。しかしミスも目立って荒いゲーム運びとなる。トヨタ・長野の強引なフェイントプレーを電装はよくしのぎ、後半9分には逆転に成功。一度は同点に追いつかれたものの2点リードしてこのまま逃げ切るかに見えた。しかし、1点リードして残り10秒、マイボールをGKがあせって痛恨のパスミス、このボールをトヨタがカットして吉続が決めて同点、引き分けに終った。日本電装の若さが出た試合だった。

〔電装〕		得
GK	森	
	高橋	
FP	杉村	4
	橋本	5
	西木戸	0
	久本	0
	岸田	2
	井上	1
	岡崎	2
	樋口	0
	近藤	6
	柴田	3
PT	(3)	24

〔車体〕		得
GK	宮田	0
	村林	0
FP	吉続	5
	君島	6
	福田	0
	岡島	0
	河合	6
	藤長	0
	平川	0
	久保山	0
	長野	6
	蓑田	1
PT	(1)	24

（審・岩橋、足立）

◇6月10日(土)　**東京・JUKI体育館**

中村荷役運輸 33（17—12、16—13）**25 本田技研熊本**

〔戦評〕前半5分、5—2と中村がリードを奪う。その後も中村は田口のロングシュート、呉のサイドシュート、三尾のポストシュートなどで加点するが、プレスディフェンスの穴をつかれて得点差は広がらない。前半は17—12と中村の5点リードで終了。

後半、本田は中村・田口にマンツーマンディフェンスとして攻撃のリズムを狂わせに出た。これが功を奏して10分過ぎに3点差とするが、肝心なところでミスが出て追いつくことができず、最後は力尽きて突き放された。

〔熊本〕		得
GK	中尾	0
	宮本	0
FP	矢野	0
	三代	3
	松村	4
	田中	2
	山口	2
	川崎	0
	村田	1
	田中	13
	堀内	0
PT	(2)	25

〔中村〕		得
GK	石井	0
	飯塚	0
FP	田口	8
	塚田	3
	堀戸	0
	池田	3
	大木	0
	下戸成	6
	三尾	6
	呉	6
	栗原	0
	田中	1
PT	(2)	33

（審・真田、吉原）

日本電装24（11—10、13—13）**三景**

〔戦評〕前半、日本電装が岡崎のミドルシュートで先行。しかし、三景も福士を中心に得点、15分過ぎには7—3とリード。日本電装も若さあふれるプレーで反撃、29分過ぎに10—10と追いつくと、終了間際に岸田の速攻で11—10と逆転して前半を終了。

後半に入ってからは、元気いっぱいの日本電装が着々と加点、反撃する三景にミスが目立ち、12分過ぎには18—12と日本電装が大きくリードする。しかし、終盤三景も激しく追い上げ、残り5分から4点を連取したがあと一歩及ばなかった。

〔三景〕		得
GK	北川	0
	長橋	0
FP	西川	3
	斉藤	4
	高橋	4
	高橋	0
	滝沢	4
	小金山	0
	金井	1
	田村	1
	福士	6
	福永	0
PT	(3)	23

〔電装〕		得
GK	森	0
	高橋	0
FP	杉村	6
	橋本	1
	西木戸	2
	藤崎	4
	岸田	5
	井上	0
	岡崎	3
	樋口	1
	近藤	2
	柴田	0
PT	(1)	24

（審・平野、川本）

トヨタ自動車 30（13—8、17—11）**19 竹芝精巧**

〔戦評〕前半5分過ぎからトヨタ自動車は竹芝のミスをついて速攻で得点して6—3とするが、両チームとミスが多く、竹芝も粘って20分には逆に8—7とする。しかし、竹芝・桐木の退場の間に再びトヨタが逆転し、13—8と5点をリードして前半を終了。

後半に入って竹芝も懸命に追いかけるがなかなか点差は縮まらず、逆に20分過ぎからトヨタが速攻で加点し突き放した。

〔竹芝〕		得
GK	小幡	0
	大屋	0
FP	中間	5
	桐木	3
	馬場	2
	三本	0
	今村	1
	植村	3
	野崎	4
	吉川	1
	一ノ瀬	0
	森口	0
PT	(1)	19

〔自動車〕		得
GK	西井	0
	富森	0
FP	香井	2
	川田	13
	酒井	3
	堀江	5
	田村	1
	石本	0
	松尾	4
	杉元	1
	溝渕	0
	野々	0
PT	(6)	30

（審・村松、小山）

トヨタ車体 26（10—9、16—12）**21 豊田自動織機**

〔戦評〕前半15分まで互角で戦っていたが、徐々にトヨタ車体が離すかに見えたが、ノーマークシュートをよくはずして点差が開かず、10—9と1点差で前半を終了。

後半も一進一退だったが、車体キャプテン長野のアシストやシュートで車体が常にリードを保って逃げ切った。

〔自織〕		得
GK	中村	0
FP	蟹江	4
	奥畑	3
	大野	5
	諫山	0
	倉田	2
	山内	5
	伊藤	0
	鎌田	0
	杉浦	2
	山田	0
PT	(3)	21

〔車体〕		得
GK	宮田	0
	村林	0
FP	吉続	4
	君島	4
	福田	0
	岡島	0
	河合	7
	藤長	5
	平川	0
	久保山	0
	長野	6
	蓑田	0
PT	(3)	26

（審・佐藤、鈴木）

◇6月11日(日)　**東京・JUKI体育館**

本田技研熊本 27（13—8、14—13）**21 竹芝精巧**

〔戦評〕ミスの多い竹芝に対し、相手のシュートミス、ドリブルミ

〔竹芝〕		得
GK	小幡	0
	大屋	0
FP	中間	5
	桐木	1
	馬場	2
	三本	1
	今村	5
	植村	5
	野崎	0
	吉川	2
	一ノ瀬	0
	百合野	0
PT	(5)	21

〔熊本〕		得
GK	中尾	0
	宮本	0
FP	矢野	0
	三代	2
	松村	8
	田中	2
	山口	9
	川崎	0
	村田	1
	田中	5
	堀内	0
PT	(2)	27

（審・佐藤、鈴木）

スを速攻につなげて着実に得点を伸ばした本田が5点差をつけて前半を終了。

後半立ち上がり、本田の連続退場で竹芝は2点差にまで迫るが、チャンスでミスを連発して自滅した。

中村荷役運輸 22（9―10 13―9）19 トヨタ車体

〔戦評〕トヨタは立ち上がり2分君島のサイドシュートで先行、その後も逆速攻などで加点する。一方の中村は、田口、呉の大型選手を中心に得点を重ねるが、トヨタGK宮田がロングシュートを再三阻み、10―9と1点をリードして前半を終了。

後半に入って両者激しい攻防をくり広げ、22分過ぎまで17―17と緊迫したゲームが続く。しかし、残り5分から中村が3点を連取してゲームを決定づけた。

〔車体〕	得		〔中村〕	得
宮田	0	GK	石井	0
村林	0	GK	飯塚	0
吉続	1	FP	田口	7
君島	3	FP	塚田	3
福田	0	FP	堀戸	0
岡島	0	FP	池田	1
河合	5	FP	大木	0
藤長	0	FP	下戸成	2
平川	4	FP	三尾	1
久保山	0	FP	呉	7
長野	5	FP	栗原	0
蓑田	0	FP	田中	1
(2)	18	PT	(2)	22

（審・吉原 真田）

トヨタ自動車 29（12―14 17―8）22 日本電装

〔戦評〕リーグ新加盟の日本電装は、若さあふれるのびのびとしたプレーでトヨタ自動車を圧倒、一時5点差まで広げた。しかし、粘るトヨタは川田のロングシュートなどで追い上げ、2点差までつめて前半を終了。

後半はお互いに守り合いとなったが、残り10分、遂に同点に追いつく。日本電装に疲れが見え、終盤15分間で1点しかとれず、惜しくも白星を逃がした。

〔電装〕	得		〔自動車〕	得
森	0	GK	西井	0
高橋	0	GK	富森	0
杉村	4	FP	香井	5
橋本	4	FP	川田	14
西木戸	1	FP	酒井	2
久本	2	FP	堀江	4
岸田	0	FP	田村	0
井上	7	FP	石本	0
岡崎	2	FP	松尾	2
樋口	0	FP	杉元	2
近藤	2	FP	溝淵	0
柴田	0	FP	光田	0
(5)	22	PT	(3)	29

（審・後藤 酒井）

三景 33（18―6 15―12）18 豊田自動織機

〔戦評〕三景は立ち上がりから激しいディフェンスとGK長橋の再三にわたる好キーピングから攻撃に転じ、攻めては縦からのカットイン、サイドシュート、ポストシュートなど多彩な攻撃を見せた。一方豊田動織機も一時3点差までつめたが、キャッチミス、パスカットからの三景の速攻を許し、前半で12点差をつけられてしまった。

後半、豊田も立ち直りを見せて粘ったが、前半の失点が余りにも大きすぎた。

〔自織〕	得		〔三景〕	得
中村	0	GK	北川	0
		GK	長橋	0
蟹江	5	FP	西川	9
奥畑	1	FP	斉藤	7
大野	4	FP	高橋	1
諫山	2	FP	高橋	1
倉田	2	FP	滝沢	2
山内	3	FP	小金山	1
伊藤	0	FP	金井	5
鎌田	0	FP	田村	2
杉浦	1	FP	福士	5
山田	0	FP	福永	0
(2)	18	PT	(4)	33

（審・平野 川本）

◇6月17日(土) 埼玉・大崎電気体育館

トヨタ自動車 31（16―14 15―11）25 豊田自動織機

〔戦評〕トヨタ自動車が先制、その後一進一退の展開で、16―14と2点リードして前半を終了した。

後半に入ってもトヨタは川田を中心に加点するが、豊田自動織機も譲らず、15分まで2点差のまま進む。終盤に入るとトヨタ自動車の速攻が決まり始め、6点差をつけて終了した。

〔自織〕	得		〔自動車〕	得
柴田	0	GK	西井	0
中村	0	GK	富森	0
蟹江	3	FP	香田	10
奥畑	2	FP	川田	9
大野	8	FP	酒井	1
諫山	5	FP	堀江	1
倉田	1	FP	中西	0
山内	6	FP	田村	0
伊藤	0	FP	石本	0
鎌田	0	FP	松尾	3
杉浦	0	FP	杉元	5
山田	0	FP	森	2
(1)	25	PT	(2)	31

（審・川口 兼田）

中村荷役運輸 34（16―9 18―15）24 三景

〔戦評〕中村荷役が1―5からのプレスディフェンスで三景のオフェンスをかく乱し、前半5分には5―2とリードする。その後も田口、呉のボール回しで得点、16―9で前半を終了する。

後半も中村はオフェンス、ディフェンスともバランスよく、いいムードでゲームを展開していく。一方三景も田村の踏ばりで追いかけるが前半の点差が大きく、10点差で試合終了。

〔三景〕	得		〔中村〕	得
北川	0	GK	石井	0
長橋	0	GK	飯塚	0
西川	3	FP	田口	10
斉藤	1	FP	塚田	2
高橋	0	FP	堀戸	4
滝沢	1	FP	池田	3
小金山	1	FP	大木	0
木原	2	FP	下戸成	2
金井	2	FP	三尾	4
田村	6	FP	呉	9
福士	8	FP	栗原	0
福永	0	FP	田中	0
(5)	24	PT	(6)	34

（審・桜井 今井）

竹芝精巧 26（16―14 10―11）25 トヨタ車体

〔戦評〕竹芝ののびのびとしたプレーにトヨタ車体はリズムをつかめず、常にリードを奪われ苦しい展開となる。竹芝はGK大屋の活躍もあって2点リードして前半を終わる。

後半は両GKがよくとり、10分まで互角の展開となる。トヨタ車体は竹芝の今村をマンツーマンディフェンスし、竹芝のリズムを崩しにかかり、残り5分で逆転に成功する。しかし竹芝も粘り、再度

追いついて終了30秒前に中間が決勝シュートを決めて逃げ切った。

得	〔車体〕		〔竹芝〕	得
0	宮田	GK	小幡	0
0	村林		大屋	0
3	吉続	FP	中間	11
9	君島		桐木	4
0	福田		馬場	2
2	岡島		三本	2
4	河合		今村	7
1	藤長		植村	0
1	平川		野崎	0
5	長野		吉川	0
0	蓑田		一ノ瀬	0
0	井上		百合野	0
25	(2)	PT	(1)	26

〔審・兼田・水野〕

本田技研熊本 28〔11—10 / 17—17〕27 日本電装

〔戦評〕両チームとも若い選手が多いためミスが目立つ。前半は一進一退の互角の展開で11―10と本田が1点をリードして後半へ。

後半、徐々に本田がリードを広げ、17分には4点差とする。しかし日本電装も粘りを見せて追い上げ、残り5分に2点差、2分には1点差としたが、ここまでで力尽きた。

得	〔電装〕		〔熊本〕	得
0	森	GK	中尾	0
0	福山		宮本	0
4	杉村	FP	矢野	2
5	久本		三代	6
0	岸田		松村	5
4	井上		田中	1
0	岡崎		山口	5
2	樋口		川崎	5
7	近藤		村田	0
5	難波		田中	4
0	柴田		堀内	0
0	森迫			
27	(4)	PT	(2)	28

〔審・富永・松信〕

◇6月18日(日) 埼玉・大崎電気体育館

中村荷役運輸 33〔16—11 / 17—10〕21 日本電装

〔戦評〕今リーグ台風の目の日本電装はスタート良く得点を重ねるが、田口、呉の新加入で意気上がる中村も譲らず、前半20分で4点差をつけた。

後半に入っても中村は呉のロングシュートで加点、10分には23―14と9点差をつける。日本電装はマンツーマンディフェンスして反撃を試みるが、なかなか点差を縮めることができず、そのまま中村が大差をつけて逃げ切った。

得	〔電装〕		〔中村〕	得
0	森	GK	石井	0
0	高橋		飯塚	0
9	杉村	FP	田口	4
1	橋本		塚田	3
1	久本		堀戸	2
0	岩田		池田	4
4	井上		大木	2
0	岡崎		下戸成	4
0	樋口		三尾	6
1	近藤		呉	8
3	難波		栗原	0
1	柴田		田中	0
21	(3)	PT	(1)	23

〔審・桜井・今井〕

トヨタ自動車 27〔14—13 / 13—12〕25 本田技研熊本

〔戦評〕トヨタ自動車は出だし好調で、5分には3―0とリードした。本田も田中のシュート、アシストで反撃し、12分には7―4と逆転した。しかしトヨタも再び反撃、25分に同点に追いつき、前半終了間近に加点したトヨタが1点リードして前半終了。

後半、開始早々本田は川崎のロングシュートで追いつき、その後も追いつ追われつの展開で最後の最後までもつれたが、川田のシュートで突き放したトヨタが2点差をつけて勝利を飾った。

得	〔熊本〕		〔自動車〕	得
0	中尾	GK	西井	0
0	宮本		富森	0
0	矢野	FP	香井	5
2	三代		川田	11
7	松村		酒井	3
3	田中		堀江	2
0	山口		中西	2
6	川崎		田村	0
0	村田		石本	0
7	田中		松尾	1
0	堀内		杉元	3
			森	0
25	(3)	PT	(1)	27

〔審・桜井・今井〕

竹芝精巧 28〔14—7 / 14—12〕19 豊田自動織機

〔戦評〕立ち上がりは豊田がリードを奪ったが、竹芝が10分過ぎに追いつき、着々と加点して逆に突き放す展開となり、14―7で前半を終了。

前半の最後に退場者を2人出した竹芝は、後半立ち上がりに豊田に2点詰められ、じりじりと反撃され3点差になる。しかし竹芝もよくもちこたえ、終盤逆に突き放して逃げ切った。

得	〔自織〕		〔竹芝〕	得
0	柴田	GK	小幡	0
0	中村		大屋	0
3	蟹江	FP	中間	1
4	奥畑		森口	0
5	大野		桐木	6
2	諫山		馬場	6
1	倉田		三本	4
1	山内		今村	8
0	伊藤		植村	0
0	鎌田		野崎	1
3	杉浦		吉川	2
0	山田		長野	0
19	(0)	PT	(3)	28

〔審・兼田・水野〕

トヨタ車体 25〔11—10 / 14—14〕24 三景

〔戦評〕出だしのリードのままのリズムで三景がゲームを進めていったが、前半残り1分でトヨタ車体が逆転に成功、11―10で前半を終了。

後半は、逆に車体が先手をうって13分には5点差をつけた。しかし三景も粘りを見せて、西川、高橋の速攻で1点差にまで追い上げたが及ばなかった。

得	〔三景〕		〔車体〕	得
0	北川	GK	宮田	0
0	長橋		村林	0
6	西川	FP	吉続	6
3	斉藤		君島	6
8	高橋		福田	0
0	滝沢		岡嶋	2
2	金山		川合	2
0	木原		藤長	4
2	金井		平川	2
2	田村		長野	2
1	福士		蓑田	1
			井上	0
24	(1)	PT	(2)	25

〔審・兼田・水野〕

◇6月24日(土) 茨城・霞ヶ浦文化体育館

竹芝精巧 24〔7—11 / 17—9〕20 三景

〔戦評〕前半立ち上がり両チームともたついたが、三景が次第に調子をあげて11―7と4点をリードして前半を終了。

後半に入って一進一退のゲーム展開が続いたが、三景のパスミス、チームワークの乱れに竹芝がつけ込み中盤着々と加点、後半大差をつけた竹芝が逆転勝ちを収めた。

得	〔三景〕		〔竹芝〕	得
0	北川	GK	小幡	0
0	石井		大屋	0
3	西川	FP	中間	5
5	斉藤		桐木	4
5	高橋		馬場	3
1	滝沢		三本	0
0	小金山		今村	7
0	木原		植村	1
4	金井		野崎	0
0	福永		吉川	4
2	田村		一ノ瀬	0
			百合野	0
20	(1)	PT	(3)	24

〔審・細谷・谷萩〕

◇6月25日(日) 鹿児島・国分市総合体育館

本田技研熊本 21〔9—10 / 12—11〕21 豊田自動織機

〔戦評〕立ち上がり、豊田はカットイン、ミドルシュートで得点。対する本田は松村のロングシュートで対抗、豊田が先行、本田がこれを追うという形で進行したが、互いに決め手がないまま前半を終了。

得	〔自織〕		〔熊本〕	得
0	柴田	GK	坂本	0
0	中村		宮本	0
3	蟹江	FP	矢野	3
2	奥畑		荒田	0
8	大野		三代	3
1	諫山		松村	6
2	倉田		田中	2
5	山内		山口	4
0	伊藤		川崎	0
0	鎌田		村田	2
0	杉浦		田中	1
0	山田		堀内	0
21	(2)	PT	(0)	21

〔審・東尾敷・馬場口〕

後半、本田は積極的に前に出てアクティブなディフェンスをとるが、8分には同時に2人の退場者を出した。しかし豊田もこのチャンスを生かすことができず、逆に2点を加点されるなど両チームとも最後まで流れに乗れず、21－21で引き分けた。

◇6月25日(日)　広島市東区スポーツセンター

トヨタ自動車 33（17－16　16－12）28 中村荷役運輸

〔戦評〕トヨタ自動車・香井が先制、中村荷役をすぐに呉が返し、互い一進一退の攻防を見せたが、中盤からトヨタが香井、川田のシュートを軸にじりじりと引き離し4点をリードして前半を終了。

後半は、中村も下戸成、呉といったところが着々と得点をあげ全くの互角の展開となったが、残念ながら前半の点差を詰めることができなかった。

得	〔自動車〕		〔中村〕	得
0	西井	GK	石井	0
0	富森	GK	飯塚	0
7	香井	FP	田口	4
9	川田		塚田	0
2	酒井		堀戸	1
2	堀江	〔審・池田 久保〕	池田	5
3	中西		大木	0
6	田村		下戸成	6
0	石本		三尾	5
0	松尾		呉	7
3	杉元		栗原	0
1	森		田中	0
33	(2)	PT	(1)	28

◇7月1日(土)　大阪・長居球技場

本田技研熊本 31（16－12　15－13）25 三景

〔戦評〕スタートから1点を争う好ゲーム。しかし、本田GKの好守で三景にあせりが目立ち、ミスが出て本田の速攻を許し、15－13と本田が2点をリードして前半を終了。

後半も一進一退の展開であったが、終盤、本田が三代、川崎らの速攻を決めて、粘る三景を突き放した。

得	〔熊本〕		〔三景〕	得
0	中尾	GK	北川	0
0	宮本	GK	長橋	0
1	矢野	FP	西川	5
0	荒田		高橋	7
2	三代		滝沢	2
6	松村	〔審・佐谷 村屋〕	木原	0
0	田中		金井	5
9	山口		福士	2
6	川崎		中野	0
4	村田		高橋	0
3	田中		福永	4
			近藤	0
31	(3)	PT	(0)	25

トヨタ自動車 32（14－15　18－12）27 トヨタ車体

〔戦評〕トヨタ自動車が前半立ち上がりから杉元らの活躍でとび出し4点をリード。トヨタ車体も反撃を見せたが、自動車の攻撃力が上回り、18－12と6点をリードして前半を終了。

後半に入り、車体・長野が意地を見せて反撃、じりじりと追い上げたが、何とか前半のリードを守った自動車が逃げ切った。

得	〔自動車〕		〔車体〕	得
0	西井	GK	宮田	0
0	富森	GK	村林	0
4	香井	FP	吉続	0
5	川田		君島	6
2	酒井		河合	5
0	堀江	〔審・前川 秋永〕	藤長	3
0	中西		平川	4
7	田村		久保山	0
3	石本		長野	0
4	松尾		蓑田	8
5	杉元		井上	0
2	森		崎野	0
32	(0)	PT	(3)	27

中村荷役運輸 23（10－7　13－11）18 竹芝精巧

〔戦評〕出だし竹芝精巧に少し固さが目立ったが、しかし古豪・中村に互角の戦いを挑む。中村・呉のロングシュートに対しGK大屋がよく反応して竹芝ペース。しかし、終盤、中村は三屋らの速攻、PTで13－11と2点をリードして前半を終了。

後半に入っても一進一退の展開。両チームともに決め手がなく、決定的なリードを奪えずに進んだが、最後は中村が呉の連続ゴールで竹芝の追い上げを防いで逃げ切った。

得	〔中村〕		〔竹芝〕	得
0	石井	GK	小幡	0
0	飯塚	GK	大屋	0
4	田口	FP	中間	8
0	塚田		桐木	4
0	堀戸		馬場	20
4	池田	〔審・家永 奥田〕	三本	1
0	大木		今村	2
4	木戸		野崎	0
3	三尾		吉川	1
8	呉		一ノ瀬	0
0	栗原		森口	0
0	田中		植村	0
23	(2)	PT	(2)	18

日本電装 22（15－8　7－7）15 豊田自動織機

〔戦評〕前半は、豊田自動織機のシュートミスにも助けられ、7－7とロースコアーながら若い日本電装が互角の戦い。

後半、日本電装はGKの好守と前半の勢いを生かしてリードを奪い、あせる豊田をじりじりと引き離して逃げ切った。

得	〔電装〕		〔織機〕	得
0	森	GK	柴田	0
0	高橋	GK	中村	0
7	杉村	FP	蟹江	2
5	橋本		奥畑	3
0	西木戸		大野	2
0	藤崎	〔審・丸谷 西村〕	諫山	1
2	久本		倉田	4
3	岸田		山内	3
0	樋口		伊藤	0
4	近藤		鎌田	0
1	難波		杉浦	0
0	柴田		山田	0
22	(4)	PT	(0)	15

◇7月2日(日)　大阪・長居球技場

日本電装 33（19－11　14－14）25 竹芝精巧

〔戦評〕前半、竹芝精巧がペナル

得	〔電装〕		〔竹芝〕	得
0	森	GK	小幡	0
0	福山	GK	大屋	1
9	杉村	FP	中間	1
7	橋本		桐木	2
1	西木戸		馬場	6
0	藤崎	〔審・丸谷 西村〕	三本	7
2	久本		今村	6
6	岸田		植村	1
2	岡崎		野崎	0
0	樋口		吉川	1
0	近藤		一ノ瀬	0
6	難波		百合野	0
33	(1)	PT	(4)	25

ティーで先制、竹芝が終始先行したが、終盤日本電装が追い上げ、14—14の同点で折り返す。

後半に入ると、勢いの出てきた日本電装が杉村の3連続得点などでリードを奪い、終盤息切れのした竹芝をふり切って快勝した。

中村荷役運輸 44 〔23—13 / 21—9〕 22 豊田自動織機

〔戦評〕県の攻守にわたる大活躍で中村荷役が前半から大きくリードを奪って勝負を決した。

豊田自動織機は、シュートミスも多く、またディフェンスも相手攻撃を押さえることができず、大量点を奪われて敗れた。

〔織機〕		得
GK	柴田	0
GK	中村	0
FP	蟹江	4
FP	奥畑	6
FP	大野	2
FP	諌山	1
FP	倉田	0
FP	山内	5
FP	伊藤	0
FP	鎌田	0
FP	杉浦	2
FP	山田	2
PT	(2)	22

（審・田中 岸本）

〔中村〕		得
GK	石井	0
GK	飯塚	0
FP	田口	7
FP	塚田	1
FP	堀戸	2
FP	池田	5
FP	大下	1
FP	下戸成	6
FP	三尾	1
FP	呉	11
FP	栗原	6
FP	田中	4
PT		44

トヨタ自動車 33 〔16—12 / 17—13〕 25 三景

〔戦評〕前半互角のスタートだったが、速攻、ロングに僅かにトヨタ自動車に分があり、さらに小兵・堀江の活躍で17—13と4点をリードして前半を終了。

三景も福士の頑張りで追い上げ後半も残り10分までは互角の戦いであったが、しかしトヨタ・川田のロングシュートが冴え、終盤突き放してトヨタが快勝した。

〔三景〕		得
GK	北川	0
GK	長橋	0
FP	西川	2
FP	斉藤	6
FP	高橋	4
FP	小金山	0
FP	木原	0
FP	金井	2
FP	田村	3
FP	福士	7
FP	福永	1
FP	高橋	0
PT	(2)	25

（審・秋永 前川）

〔自動車〕		得
GK	西井	0
GK	富森	0
FP	香井	5
FP	川田	8
FP	酒井	1
FP	堀江	8
FP	中西	2
FP	田村	2
FP	石本	1
FP	松尾	0
FP	杉元	6
FP	森	0
PT	(2)	33

本田技研熊本 37 〔17—10 / 20—8〕 18 トヨタ車体

〔戦評〕前半の出だしは互角の展開であったが、トヨタ車体に元気なく、次第に本田の一方的な展開となる。速攻がおもしろいように決まり、杉村、川崎らの活躍で20—8と大量リードで前半を終了。

後半もトヨタも頑張りを見せたものの本田の勢いは止められず、大差のついたゲームとなった。

〔車体〕		得
GK	宮田	0
GK	村林	0
FP	吉続	6
FP	君島	3
FP	河合	3
FP	藤長	3
FP	平川	0
FP	久保山	1
FP	長野	1
FP	蓑田	0
FP	井上	0
FP	崎野	0
PT	(1)	18

（審・佐谷 村尾）

〔熊本〕		得
GK	中尾	0
GK	宮本	0
FP	矢野	3
FP	荒田	0
FP	三代	7
FP	松村	8
FP	田中	3
FP	山口	3
FP	川崎	6
FP	村田	7
PT	(0)	37

〔前期順位〕

①トヨタ自動車
②中村荷役運輸
③本田技研熊本
④日本電装
⑤竹芝精巧
⑥トヨタ車体
⑦三　景
⑧豊田自動織機

女子

◇6月3日(土)
愛知・東海市民体育館

ブラザー工業 19 〔11—6 / 8—8〕 14 JUKI

〔戦評〕スタートはブラザー・野田のサイドシュート、JUKI・熊谷のポストシュートが決まり、一進一退の展開。前半15分過ぎからはブラザーの組織プレーが決まり出し、24分には8—4とする。ここでJUKIも踏張り、速攻をたて続けに決めて8—8の同点に追いついて前半を終了。

〔ムネ〕		得
GK	遠藤	0
GK	我妻	0
FP	伊藤	0
FP	皆川	2
FP	川名	2
FP	太田	2
FP	桜井	6
FP	高橋	3
FP	上遠野	1
FP	菅野	0
FP	金内	0
FP	遠藤	0
PT	(4)	16

（審・塩見 菊池）

〔ソニー〕		得
GK	阿多石	0
GK	古賀	0
FP	藤元	10
FP	野角	0
FP	平山	2
FP	楠本	0
FP	林	2
FP	東郷	3
FP	山口	6
FP	安山	0
FP	大住	2
FP	永尾	9
PT	(5)	34

後半はお互いにディフェンスがしまり、7分過ぎまで得点が動かなかったが、ブラザー・荒木がペナルティースロー、ロングシュートを確実に決め、また道上選手のポストシュートも決まり引き離した。JUKIも熊谷の速攻で対抗したが及ばなかった。

◇6月10日(土)
山梨・鐘山スポーツセンター

日立栃木 27 〔13—12 / 14—8〕 20 JUKI

〔戦評〕日立は、立ち上がり10分までエース尾苗を中心に5連続ゴールで快調なスタートを見せた。一方JUKIは、シュートにいく前までにつまらないミスが多く、反撃の糸口を見出せない。それでも15分過ぎから佐藤を中心にセットからの得点で追いつこうとするが、日立が14—8と6点をリードして前半を折り返した。

後半に入っても、日立は尾苗、山岸らが小気味よくシュートを決め、15分には21—12とさらにリー

〔JUKI〕		得
GK	大角	0
GK	上木	0
FP	石塚	0
FP	佐藤	3
FP	上田	1
FP	石井	0
FP	嶋田	1
FP	内山	0
FP	樋口	0
FP	伊原	1
FP	熊谷	8
FP	武藤	0
PT	(0)	14

（審・和田 松原）

〔ブ工〕		得
GK	岡本	0
FP	荒木	6
FP	末永	2
FP	小栗	1
FP	道上	5
FP	松尾	0
FP	進藤	2
FP	野田	3
FP	甲斐	0
FP	高木	0
FP	田中	0
PT	(2)	19

ドを広げる。終盤、JUKIも速攻で追い上げるが、結局、攻守に冴えを見せた日立の快勝であった。

◇6月10日(土)
三重・四日市市中央緑地体育館

北国銀行 26 〔12—10 / 14—8〕 18 ソニー一分

〔戦評〕立ち上がり、両チームともにシュートが決まり、10分には6—4と北国がリード。その後、ソニーもロング、速攻で追い上げるが、北国は金を中心に得点を加え、14—8で前半を終了。

後半に入り、ソニーGKがよく守っているものの、攻撃面でいまひとつ得点に結びつかなかった。北国が前半の点差を守って逃げ切った。

〔JUKI〕		得
GK	大角	0
GK	上木	0
FP	石塚	4
FP	佐藤	4
FP	上田	3
FP	嶋田	3
FP	内山	0
FP	樋口	0
FP	伊原	2
FP	熊谷	4
FP	羽田	0
FP	田中	0
PT	(0)	20

（審・水越 笠井）

〔日立〕		得
GK	岡本	0
GK	梅津	0
FP	尾苗	6
FP	神永	2
FP	柳田	3
FP	山岸	4
FP	吉鶴	3
FP	飯塚	0
FP	岡田	4
FP	石毛	1
FP	新井	4
FP	提	0
PT	(1)	27

◇6月10日(土)
愛知・三好公園総合体育館

ブラザー工業 27 〔17—6 / 10—6〕 12 ムネカタ

〔戦評〕立ち上がり動きの悪いムネカタに対しブラザーは着実に得

点、11分過ぎには5—1とリード。ムネカタも14分過ぎに速攻を決めてから動きが良くなり、桜井を中心に加点したが、ブラザーのまとまりのある攻守に、前半10—6で終了。

後半、地力に勝るブラザーは荒木のミドルシュートなどで着々と加点、ムネカタに大差をつけて快勝した。

得	〔北国〕		〔ソニー〕	得
0	木戸	GK	阿多石	0
0	岩井	GK	古賀	0
0	上田	FP	藤元	8
1	林	FP	野角	0
3	丹後	FP	平山	2
4	松田	FP	楠本	0
3	北川	FP	林	1
1	矢野	FP	東郷	4
4	北川	FP	山口	1
7	金	FP	安山	0
2	森	FP	大住	0
1	呉	FP	永尾	2
26	(4)	PT	(4)	18

（審・平賀　宇尾野）

◇6月11日(日)　岐阜県民体育館

ブラザー工業 23（10 13／8 5）13 ソニー国分

〔戦評〕前半開始から、ブラザーが末永のカットインや道上のポストでの動きなど全体的にスピーディな動き、パスワークで得点を重ねるのに対し、ソニーはブラザーのスピードあるディフェンスに苦しみ、パスが思うようにつながらず得点をあげられず、13—5と大きくリードを許して前半を終了。

後半に入り、両チームともにミスが目立ち、またディフェンスも荒っぽい試合展開となったが、ブラザーが前半の点差をそのまま生かして勝利を収めた。

得	〔ブ工〕		〔ムネ〕	得
0	岡本	GK	遠藤	0
12	荒木	FP	我妻	0
1	末永	FP	伊藤	0
1	小栗	FP	皆川	2
1	道上	FP	川名	2
2	松尾	FP	太田	1
3	進藤	FP	桜井	5
3	野田	FP	高橋	1
4	甲斐	FP	上遠野	1
0	高木	FP	菅野	0
		FP	金内	0
		FP	遠藤	0
27	(5)	PT	(3)	12

（審・杉本　工藤）

◇6月11日(日)　愛知・豊橋市総合体育館

北国銀行 37（15 22／5 6）ムネカタ

〔戦評〕北国は持ち前のフェイント力を生かし、次々とシュートを確実に決める。一方のムネカタはパスミス、キャッチミスが多く、ミスからの速攻を相手に許し、前半で大差がついて勝敗は決した。

得	〔ブ工〕		〔ソニー〕	得
0	岡本	GK	阿多石	0
5	荒木	FP	古賀	0
4	末永	FP	藤本	7
0	小栗	FP	野角	0
2	道上	FP	平山	2
1	松尾	FP	楠本	1
6	進藤	FP	林	2
3	野田	FP	東郷	0
2	甲斐	FP	山口	0
0	高木	FP	安山	0
0	田中	FP	大住	0
		FP	永尾	1
23	(3)	PT	(2)	13

（審・浅野　玉田）

◇6月17日(土)　大阪市立中央体育館

日立栃木 34（20 14／8 9）17 ムネカタ

〔戦評〕前半、日立栃木の攻撃のリズムが良く、一気に突き放すかと思われたが、ムネカタのストーリング気味の攻撃に日立の選手がやや集中力を欠いてミスを出し、前半はムネカタがよく粘った感じとなった。

しかし後半に入るとスピードの差がモロに出て、中盤以降完全に日立のペースとなった。

得	〔北国〕		〔ムネ〕	得
0	木戸	GK	遠藤	0
0	岩井	GK	我妻	0
7	上田	FP	伊藤	0
3	丹後	FP	皆川	3
4	松田	FP	川名	0
7	北川	FP	太田	0
6	矢野	FP	桜井	6
0	北川	FP	高橋	1
2	金	FP	上遠野	1
5	森	FP	菅野	0
0	宮本	FP	金内	0
3	谷本	FP	遠藤	0
37	(2)	PT	(1)	11

（審・木和田　足立）

◇6月18日(日)　愛知・岡崎市体育館

北国銀行 35（19 16／8 8）16 JUKI

〔戦評〕今リーグ好調なスタートを切った北国が、今年韓国から新加入した金がセンターのフリースローより2連続得点し、楽な立ち上がりとした。北国はその後もポスト、カットイン、速攻と多彩な攻撃によりペースをつかんでいった。一方JUKIは、再三45度とポストのコンビプレーを試みるが、北国の厚いディフェンスを打ち破ることができず、ロングとサイドシュートに頼らざるをえない状態が続いた。

後半もスピードとパワーに勝る北国の動きにJUKIのディフェンスは反応しきれず、退場者が続出した。北国はそのチャンスにも着実に得点を重ね、早くも一部復帰への自信が感じられる試合であった。

得	〔日立〕		〔ムネ〕	得
0	梅津	GK	遠藤	0
0	阿部	GK	我妻	0
1	尾苗	FP	伊藤	0
3	柳田	FP	皆川	2
2	山岸	FP	川名	3
2	吉鶴	FP	太田	1
7	飯塚	FP	桜井	4
2	繁在家	FP	高橋	2
0	岡田	FP	上遠野	5
5	新井	FP	菅野	0
8	提	FP	金内	0
4	小柏	FP	遠藤	0
34	(7)	PT	(1)	17

（審・田中　家永）

◇6月18日(日)　兵庫・西宮市立西宮体育館

日立栃木 27（14 13／9 7）16 ブラザー工業

〔戦評〕日立は多彩な攻撃と尾苗のロングシュートが随時決まり、終始リードを奪う。一方ブラザーは、パスミスなどが多く、精彩がなかった。

〔JUKI〕		得
GK	大角	0
	上木	0
FP	石塚	2
	佐藤	4
	上田	1
	石井	2
	嶋田	2
	内山	0
	樋口	0
	伊原	4
	熊谷	1
	平山	0
PT	(1)	16

〔審・浅野　和田〕

〔北国〕		得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	上田	1
	林	3
	丹後	3
	松田	5
	北川	7
	矢野	2
	北川	3
	金	7
	森	0
	県	4
PT	(6)	35

◇6月18日(日)　広島・呉市体育館

ソニー国分 34 〔16－6　18－10〕 16 ムネカタ

〔戦評〕立ち上がりは両チームとも動きが固く、シュートミスが続いたが、ソニーは4分、藤元のペナルティーからペースをつかみ、永尾、藤元のロングなどで得点を重ねた。一方ムネカタは、桜井が完全にマークされ、無理なシュートとなってなかなか得点できないまま前半が終了した。

後半に入ってもペースは変わらず、ムネカタのミスから速攻で確実に得点を重ねていったソニーの一方的な試合になった。

〔ブ工〕		得
GK	岡本	0
FP	荒木	4
	末永	3
	小栗	0
	田中	0
	道上	2
	松尾	0
	進藤	1
	野田	2
	甲斐	2
	高木	2
PT	(2)	16

〔審・馬場　浜田〕

〔日立〕		得
GK	岡本	0
	梅津	0
FP	尾苗	13
	神永	4
	柳田	1
	山岸	2
	吉鶴	2
	飯塚	3
	岡田	2
	石毛	0
	新井	0
	提	0
PT	(4)	27

◇6月24日(日)　宮崎・都城体育文化センター

日立栃木 30 〔15－9　15－9〕 18 ソニー国分

〔戦評〕前半3分、ソニー国分が永尾の得点により先制するが、日立栃木の尾苗のシュートですぐに追いつき、中盤ソニー・藤元からのポストへのパスをカットされて逆に速攻にあった。

後半、日立・神永のポストプレーなどで着実に加点、点差を広げて逃げ切った。

〔ソニー〕		得
GK	阿多石	0
	古賀	0
FP	藤元	8
	野角	0
	平山	0
	楠本	0
	林	0
	東郷	4
	山口	0
	飯	0
	大住	0
	永尾	6
PT	(1)	18

〔審・奥村　税所〕

〔日立〕		得
GK	岡本	0
	梅津	0
FP	尾苗	7
	神永	4
	柳田	2
	山岸	2
	吉鶴	1
	飯塚	4
	岡田	4
	石毛	0
	新井	4
	提	2
PT	(5)	30

◇6月25日(日)　鹿児島・国分市総合体育館

JUKI 19 〔9－10　10－8〕 18 ソニー国分

〔戦評〕ソニーは立ち上がり永尾、藤元のシュートで優位に立つが、中盤ミスが多く、流れに乗れない。これに対してJUKIは、佐藤のロングシュートにポストプレーをからめて加点し、2点差で前半を終了する。

後半に入り、ソニーは藤元のロングシュート、ポストへの巧みなパスから得点し、7分には逆転に成功。しかし、JUKIも佐藤、嶋田の活躍で一進一退の好ゲーム。終盤、JUKIはソニー・藤元の動きをマンツーマンで止め、終了1分前に佐藤が逆転のロングシュートを決めて勝利を握った。

〔ソニー〕		得
GK	阿多石	0
	古賀	0
FP	藤元	6
	野角	0
	平山	2
	楠本	0
	林	0
	東郷	4
	山口	0
	安山	0
	大住	2
	永尾	4
PT	(2)	18

〔審・奥村　松林〕

〔JUKI〕		得
GK	大角	0
FP	石塚	3
	佐藤	7
	上田	3
	石井	0
	嶋田	2
	内山	0
	樋口	1
	伊原	2
	熊谷	1
PT	(2)	19

◇6月25日(日)　広島市東区スポーツセンター

北国銀行 24 〔11－5　13－9〕 14 ブラザー工業

〔戦評〕前半で、両チームとも動きが固くロースコアーの立ち上がりとなった。しかし、金のスピーディな動きを中心とした北国が4点をリードして前半を終了。

後半に入ってもブラザーは実に7分間無得点。その間に着実に加点した北国が差を広げて勝負を決めた。ブラザーは、終盤スタミナ切れでパス回しも鈍く、北国のディフェンスを崩すことができず、ロースコアーのまま終了した。

〔ブ工〕		得
GK	岡本	0
FP	荒木	4
	末永	5
	小栗	0
	道上	0
	松尾	0
	進藤	1
	野田	4
	甲斐	0
	高木	0
	田中	0
PT	(2)	14

〔審・中岡　長谷〕

〔北国〕		得
GK	木戸	0
	岩井	0
FP	上田	0
	林	1
	丹後	1
	松田	5
	北川	1
	矢野	1
	北川	0
	金	11
	森	1
	県	3
PT	(3)	24

◇7月2日(日)　福井県営体育館

日立栃木 23 〔12－7　11－13〕 20 北国銀行

〔戦評〕前半、北国銀行が4連続得点をあげて先行したが、日立も中盤粘りを見せ、13—11と北国が2点リードして前半を終了。

後半、北国のシュートミスにも助けられ、後半開始早々に逆転、その後一進一退の展開となったが確実に得点した日立が3点差をつけて逃げ切った。

〔北国〕		得
GK	木戸	
	岩井	
FP	林	2
	丹後	0
	松田	1
	北川	4
	矢野	0
	北川	0
	金	6
	森	0
	県	6
	谷本	1
PT	(7)	20

〔審・中田　山口〕

〔日立〕		得
GK	岡本	0
	梅津	0
FP	尾苗	4
	神永	2
	柳田	2
	山岸	3
	吉鶴	1
	飯塚	4
	岡田	2
	石毛	1
	新井	4
	提	0
PT	(6)	23

◇7月2日(日)　東京・青山学院記念館

JUKI 19 〔9－10　10－8〕 18 ムネカタ

〔戦評〕前半、ムネカタ・川名が先制シュートを決めて先行したが、JUKIは実に立ち上がり10分間無得点。しかし、ムネカタは今一歩決定的リードを奪えず、じりじりと追い上げたJUKIが23分過ぎに8—7と遂に逆転。結局10—8と2点をリードして前半を終了。

後半も立ち上がりはムネカタの方が良く、再び7分過ぎには13—12と逆転。しかし、中盤に再び一歩リードしたJUKIが結局1点差を守って逃げ切った。

〔ムネ〕		得
GK	遠藤	0
	我妻	0
FP	伊藤	0
	皆川	2
	川名	2
	太田	1
	桜井	2
	高橋	2
	上遠野	4
	菅野	1
	金内	2
	遠藤	0
PT	(4)	18

〔審・三辻　鶴留〕

〔JUKI〕		得
GK	大角	0
	上木	0
FP	石塚	4
	佐藤	4
	上田	3
	石井	0
	嶋田	1
	内山	1
	樋口	0
	伊原	0
	熊谷	6
	武藤	0
PT	(0)	19

〔順位〕

①日立栃木
②北国銀行
③ブラザー工業
④JUKI
⑤ソニー国分
⑥ムネカタ

第19回IHFトレーナーシンポジウム報告

強化委員会

1. **期日** 1989年5月14日～5月20日
2. **場所** ポルトガル ストバール市トロイア
3. **参加国** 53の国と地域
4. **参加人数** 102人、IHFより6人、ポルトガル協会より30人、計138人（参加者のうち現在のナショナルチーム監督32人）

【日程とシンポジウム内容の概略】

5月14日
参加者集合、打ち合せ

5月15日
開会セレモニー

ウース・ツアイアー（スイス）
「韓国ナショナルチームのトレーニング（オリンピックへ向けての週単位の合宿計画内容）」
オリンピックのために2年間で700日を越す合宿について、1日3回（朝午前、午後）のトレーニングの詳細について報告

ラロスラム・ムラーツ（チェコ）
「ハンドボールの今日的レベルの分析」
ミュンヘン・オリンピック以降のハンドボールの技術の概略にふれ、現代ハンドボールの防御と攻撃について分析

5月16日
ジョン・デ・デオス・ロマン・セコ（スペイン）
「現代的で魅力のある、攻撃ゲームに関する見解」
ソウル・オリンピックの各国選手の特徴を分析し、攻撃のそれぞれのポジションの動きについて説明

ボルフガング・クライゼル（東ドイツ）
「1980年代におけるハンドボールの発展とソウルオリンピックの成果」
1980年代の世界の代表的な選手の特徴から、ハンドボールゲームの変化を説明

5月17日
実技指導
ブラニスラブ・ポクラヤツ（ユーゴ）「リズムトレーニング」
モハメッド・アジス・デロアズ（アルジェリア）「アタックデフィンス」
アバス・アルスラナギッチ（ユーゴ）「ゴールキーパートレーニング」
ジョン・デ・デオス・ロマン・セコ（スペイン）「デフィンストレーニング」
ジエン・ミハエル・ゲルメイン（フランス）「コンビネーションプレイ」

5月18日
デートリッヒ・シュペート（東ドイツ）
「ゲームコントロールのできる、センタープレイヤーを中心とした速攻」
1990年代のハンドボールは、1、大型選手の速いプレイ、2、選手個々の完成された技術、3、変化のある戦術、が中心になって展開されることを前提にして、ソウルオリンピックの速攻（特にソ連と韓国）について分析

ブラニスラブ・ポクラヤツ（ユーゴ）
「ハンドボールの発展」
今後の攻撃として、ドリブル、フエントとそれらのコンビネーションプレイの多用、バックシュートや特殊なシュートの開発、特殊な形態のデフェンスに対する戦術を考える必用があることと、今後の防御として、特別な形態のデフェンスの開発、多様な攻撃に対するプレスデフェンスの開発が重要であることを強調

クラウデ・バイヤー（フランス）
「選手を養成する上での、トップレベルからの要求とそれらの影響について」
ジュニアの段階から、競技レベル向上のために必用な技術の追求と、それらから派生する教育的問題、12歳以下、12～15歳、15歳以上に分類して説明

5月19日
イオン・クンスト・ゲルマニウム（ルーマニア）
「ハンドボール競技をさらに発展させるためのいくつかの要因」
ハンドボールの発展のためには、ジュニア段階における組織的、系統的指導が重要で、特に10～12歳、12～14歳、14～16歳、16～18歳のそれぞれの年齢、レベルを考慮した指導がされることが重要

エリック・エリアス（スウェーデン）
「ルールと審判委員会の委員長挨拶」1989年のルール註解

5月20日
閉会セレモニー
解散

チーフレフェリーシンポジウム報告

ＩＨＦレクチュアラー　光島　磯雄
審判担当常務理事　大塚　文雄

ＩＨＦチーフレフェリーシンポジウムは、新緑の美しいベルギーの古都リェージュ市に於て約70名の参加をえて開催された。

宿舎と会議場はリェージュ市の真中を流れるミューズ川畔にあり、会議場は（PALAIS DES CONGR-ES）、同時通訳の施設のある立派な会議場である。

この地域はフランス語圏で、フランス語になじみのない私（大塚）には大変な苦戦であった。同時通訳もフランス流英語・フランス流独語で、英語も独語もみんな仏語になってしまうので、とても現解しにくかった。

さて会議には Erik ELIAS（規則審判委員長）、Ioan RUNST GHERMA NESCU（技術委員長）、Istvan MADARASZ（医事委員長）をはじめとして、規則審判委員会の Werner VICK（西独）、Janis GRINBERGAS（ソ連）、Theo KIELHORN（オランダ）、Oivind BOLSTAD（ノルウェー）、そして女医の医事委員会 Vrsula MIEDLICH（東独）の各委員が参加し講演を行った。

シンポジウムは毎日、午前・午後に前記の各委員による講演のあと、独語、仏語、英語のスタディグループに分かれ討議を行った。光島氏は独語グループ、私は英語グループに属し出席した。上記委員の講演は後日機関誌に報告するとして、今回はグループワークの概要を報告したい。

まず開幕講演で PRC プレジデントELIAS から、これまでのＩＨＦ主催の大きな大会をみて最も重要な課題は、レフェリーの質の向上である。この事はＩＨＦ加盟国でも同じことで、各国とも質の向上をはかることで量ではない。ＩＨＦフフェリーも同じで、この事をよくわきまえ、ＩＨＦフフェリーを登録するように、４ペアも５ペアも登録してくる国があるが、それはその国にとっても何にもならない。こういう国の審判長の見識を疑う。また、レフェリーの定年を現在の50歳から、52歳～55歳くらいまで延長してはどうかとの提案を受けてグループワークに入った。

英語圏グループはアジア（日本・中国・バレーン・クウェート・イラク）、アメリカ（ＵＳＡ・カナダ）、アフリカ（サウジアラビア・カタール・チュニジア・アラブ首長国連邦・エジプト）そしてヨーロッパからイギリスとスウェーデンが集まった。韓国は、オリンピックという大事業をやった後なのに、なぜかこのシンポジュームに不参加であった。

各国共審判長とその国のトップレフェリーたちが参加していた。この会議でＩＨＦ・ＰＲＣの委員や各地区のレクチュアラーとトップレフェリーたちが、顔合せの場になっているのが注目される。日本も世界の桧舞台に立つためには、この会議にトップレフェリーの参加が絶対必要である事を痛感した。

さて英語圏のグループワークであるが、座長にイギリスのレクチュアラー Ian COOK を選出し始まった。会議はまずエリアスの開幕演説のレフェリーの質の向上について議論が沸騰した。すなわち、世界選手権大会やオリンピック大会にノンヨーロピアンのレフェリーの割当をもっと増やしてもらいたい。我々は世界の笛を吹かない事には質の向上もない。といきなりＩＨＦに不満が出て緊張する。また、ＩＨＦはドイツ語を中心にやり過ぎる。我々英語圏の国は多いのに軽視しすぎる。など……この底流には、ソウル・オリンピックの後フランスで、アメリカのＭｒアール氏がノンヨーロピアンの国を集めて（日本にこの呼びかけがあったかどうかは、私にはわからない。）ＩＨＦ主催の大会にもっとアメリカ・アジア・アフリカのレフェリーを多く割り当るように公開質問状(?)を出したという。

こういう事があって英語グループは異様な盛り上がりをみせ、この件に関してはさすがのエリアスも困り果て、世界選手権大会は、質の高いレフェリーによって運営されなければならない。とか、ＩＨＦは金を持っていないので、開催国の負担が増すとかいろいろの言いわけをしていたが、ＩＨＦとしては、今後検討をする事を約束した。確かに世界選手権大会は質の高いレフェリーによって運営されなければならないが、かといってその経験を積まなければ、いつまでたっても質の向上は望めない。ＩＨＦレフェリーというのは、いったい何なのか、という矛盾が浮彫りにされた問題であった。

ちなみに、1975～1988までIHFの試合を担当した3438ペアの国別の内訳の主なものは次のようである。

ベスト10（指名の多い国）

西ドイツ	296ペア
ユーゴスラビア	243ペア
デンマーク	239ペア
スウェーデン	211ペア
ルーマニア	186ペア
オランダ	185ペア
スイス	178ペア
ノールウェー	170ペア
フランス	169ペア
チェロスロバキア	149ペア

ワースト10（指名の少ない国）

日本	1ペア
シリア	1ペア
バレーン	1ペア
エジプト	1ペア
ナイジェリア	1ペア
台湾	1ペア
クウェート	1ペア
カナダ	2ペア
中国	2ペア
アルゼンチン	3ペア
セネガル	3ペア

この結果を見ても、いかにヨーロッパのレフェリーが優遇されているか一目瞭然である。

こういった状況でPRC委員の講演で「エリートレフェリーのトレーニング」とか「レフェリーの教育について」とか、どの問題も結局この事に話しがぶつかってしまった。

このように、多くの国がIHFに不満の意を表わし、会議が緊張したムードになったのは、この会議が初めてであるらしい。ヨーロッパのベテラン・レクチュアラーも、この事はもっと早く考えなければいけなかったのに……、とIHFの姿勢に批判的であった。いずれ数年後には、改善されなければならない問題である。

最後に、私の見解で誠に恐縮であるが、PRC委員の方々は皆老令で健康に不安があり、近いうちに大幅に入れ替わるのではないかと思う。その意味で私は、次のPRC委員の候補であるWALTER・KOCA（オーストリア）、HANSUELI・ISCHER（スイス）、WILLI HACKL（西ドイツ）、GOSTA・SVENSSON（スウェーデン）の各氏と接触、多くの時を過した。彼らは日本人レフェリーを高く評価し、すでに世界のトップに近いレベルであり、アジア・アフリカ・アメリカの中ではNo1であるとの高い評価をしてくれている。私はこの言葉を信じ、さらに日本人レフェリーの質の向上に務め、いつの日か世界の桧舞台に立てることを期待している。

ちなみに話題になったレフェリーは斉藤・千野・千野・後藤（B女子ワールド）、岡本・清水（世界学生）、島田・後藤・川島・森（アンマン・アジア選手権）などであった。

平成元年度から「IHFルール採用」

㈶日本ハンドボール協会
審判部

㈶日本ハンドボール協会では、昭和62年度より「スピード感あふれ魅力のあるハンドボールを目指」4項目からなる日本協会ルールを採用実施し、活性化をはかった。しかしソウル・オリンピックを控え、国内では数多くの国際試合が行われる中で、いろいろなひずみが生じてきたために、平成元年シーズンよりIHFルールに戻し実施することになった。主な変更点は、次の通りである。

「スローオフ」

〈日本協会ルール〉前半及び後半の競技開始以外のスローオフ、つまり得点された後のスローオフは、ゴールキーパーがゴールキーパーラインの所から行う。また、プレーヤーはコートのどこに（除ゴールエリア内）いてもさしつかえない。

〈IHFルール〉スローオフはコートの中央から、どの方向に向かって行ってもよい。また、スローオフの時は、すべてのプレーヤーは自己のコートにいなければならない。

「フリースロー」

〈日本協会ルール〉攻撃側プレーヤーは、フリースローライン内（ゴールエリアラインとフリースローラインの間の地域）にいてもさしつかえない。ただし、ポイントから3m以内のフリースローライン内は立ち入れない。

〈IHFルール〉攻撃側プレーヤーはフリースローライン内に、いてはならない。

「作戦タイム」

〈日本協会ルール〉前半・後半に1回ずつ1分の作戦タイムが許される。

〈IHFルール〉条文の中になし。したがって、作戦タイムは取ることが出来ない。

「プレイバック」

〈日本協会ルール〉攻撃側がいったんセンターラインを越えてボールを相手側コートに持ち込めば、再びセンターラインを越えて、自コートに戻してはいけない。

〈IHFルール〉条文の中になし。したがって40×20のコートの中で自由にボールを操作し、攻撃してもよい。

ソウル・オリンピック敗戦の反省として、スピード不足とパワー不足が上げられているが、今後ハンドボール関係者が一体となって、少しでもそれらを解消しバルセロナ・オリンピックに向け一丸となって進んでいってほしい。

連載 1

小・中学生のための基礎的技術 その1『パス』

東京都世田谷区立桜木中学校　ハンドボール部監督・加藤益弘

今回は、ハンドボールの中の基礎技術の中でも特に重要なパスについて述べたいと思う。パスの種類には、ショルダーパス、ラテラルパス、バックパス、フックパスなどがあるが、中学生以下対象ということを含め、筋力、手の大きさなどを考慮し、ショルダーパスにしぼって述べることにしたい。

当然、良いパスを送り出すには良いキャッチという動作が要求されることは言うまでもないことで、キャッチ→テイクバック（ボールを送り出す準備動作）→フォワードスイング（ボールを送り出す動作）→フォロースルー（投げ終った後の補助動作）、これら一連の動きがスムーズに行われることにより、良いパスが完成されると言える。特に初心者には、この一連の動きの修熟度を見ながらアドバイスを加え、大きく分けた四つの動きの修正を行う必要がある。

では一つ一つの動きを分解して考えていくことにする。

一つめは、キャッチであるが、写真のように左右の人指し指、親指が向き合うように顔の下方で自然に指を開き、ボールをキャッチする時に、指先に力を入れるようにする。ボールを恐わがって上手に取れない場合は、両手を大きく伸ばさせ、キャッチを行う時ひじを曲げて取るようにさせると、取れなかったボールも取れるようになっていくようである。それでも取れにくい場合には、キャッチしようとするたび同じような方法で行うが、最後に、指先に力を入れて意識的にボールを地面にバウンドさせてからキャッチするようにさせると、ボールをつかむための指先の感覚が意外と早く修得できるようである。

もちろん基本的な考え方としてゲームで使われるようなさまざまな速度のパスではなく、ごく普通のどちらかと言えばゆるい部類のパスということであると考えていただきたい。

二つめに、テークバックであるが、キャッチしたボールをきき腕側に逆側の手で押すようにして、ひじが肩より下がらないようなポジションにボールを引き上げる。高いポジションは、パスの延長としてシュートがあると考えると、変化の幅を大きくとれる、高いところへの引き上げが重要であると考える。

三つめに、フォワードスリングであるが、この動きの重要な部分は、肩、ひじ、手首、指という順になめらかにスリングすることである。手首はこのとき、投げる方向に返すようにするので、この一連の動きの修得がその後に選手のパス技術を大きく高めていくと思われる。

四つめは、フォロースルーであるが、一～三までの動きをスムーズに終わらせパスを完成させることになる。この動きが自然と無駄なく行えることが大切である。

以上のことがらを総合的に反復練習することによって、基本的なパスが修得できると思われる。初心者ほど、練習するうちに投球フォームが乱れやすく、それをそのままにしておくと、癖が出てきて、それが定着してしまい、将来の伸びが止まるようなことにもなりかねないので、パス技術には多くの時間をかけ基本に忠実に行なっていってほしいと思う。

小・中学生が練習の中でパス練習を行う時には、15メートルから

20メートルぐらいの直線を利用し、はじめは強く投げるよりもフォームに気を配りながらワンバンドさせるくらいの気持ちで行うようにさせ、徐々にスピードをあげていき、思うように相手の顔にライナーでコントロールできるようになるまで続ける必要がある。

投げるボールがカーブしたり、変化してしまうパスになってしまう場合がある。これは、三のフォワードスウィングの中での手首の返す方向が違うために起こることがほとんどで、この部分の見直しが必要である。距離の長短に対するボールスピードのコントロールされたパス、走るスピードに合わせたパス、身体の動く方向と逆へのパスなど、試合の展開の中でさまざまに行われるパスを徐々に修得していき、どんな方向でも、ディフェンスがいても自由自在にパスができるようになることが大切である。


写真1


写真2


写真3


写真4


写真5

各地の記録から…

東北

第42回青森県高校総体

（6月3～5日／野辺地町）

〈男子〉▼1回戦

青森商 38－13 七戸
青森南 24－17 鰺ヶ沢
横浜分校 15－12 三本木
青森東 30－7 弘前南
青森 38－9 野辺地工
青森山田 20－8 五所川原
今別 20－8 柏木農
野辺地 30－13 十和田工

▼2回戦

青森商 31－11 青森南
青森東 26－17 横浜分校
青森 25－15 青森山田
野辺地 24－13 今別

▼準決勝

青森商 26－11 青森東
野辺地 18－13 青森

▼決勝

青森商 18（8－5、10－5）10 野辺地

〈女子〉

▼1回戦

青森商 19－5 青森東

▼2回戦

青森西 28－5 青森商
野辺地 10－10 今別 3PTC1
三本木 26－9 七戸
青森中央 37－1 野辺地工

▼準決勝

青森西 22－14 野辺地
青森中央 29－10 三本木

▼決勝

青森中央 14（7－8、7－5）13 青森西

第38回宮城県高校総体

（6月3～5日／仙台高校ほか）

〈男子〉▼1回戦

古川 46－8 東北
仙台南 16－15 仙台三
仙台二 24－18 宮城広瀬
泉松陵 22－11 榴ヶ岡
仙台西 28－9 宮城水産
名取北 12－0 佐沼
古川商 13－10 仙台
泉館山 15－13 東北電子
仙台一 23－5 築館
仙台東 28－18 宮城工

▼2回戦

仙台育英 24－16 古川
仙台二 18－13 仙台南
泉松陵 20－17 一迫商
仙台商 21－18 仙台西
古川工 21－11 佐沼
仙台 17－7 塩釜
仙台一 24－9 泉館山
仙台東 17－15 仙台向山

▼3回戦

仙台育英 28－20 仙台二
仙台商 25－10 泉松陵
古川工 22－10 仙ノ台
仙台東 24－17 仙台一

▼準決勝

仙台育英 20－12 仙台商
古川工 22－16 仙台東

▼決勝

仙台育英 25（8－9、17－9）18 古川工

〈女子〉

▼1回戦

宮城広瀬 14－13 名取北
宮城二女 15－3 佐沼
朴沢女 38－4 泉松陵

▼2回戦

聖和 40－4 宮城広瀬
古川女 11－10 宮城一女
仙台女商 22－10 飯野川
涌谷 29－1 仙台東
宮城三女 14－13 宮城二女
築館女 15－5 泉館山
塩釜女 14－6 仙台西
古川商 18－3 朴沢女

▼3回戦

聖和 28－8 古川女
涌谷 22－5 仙台女商
宮城三女 26－7 築館女
古川商 22－9 塩釜女

▼準決勝

聖和 21－10 涌谷
古川商 18－16 宮城三女

▼決勝

聖和 20（11－7、9－7）14 古川商

関東

埼玉県学徒体育大会（中学）

（5月20、21日／春日部市立中野中学）

〈男子〉

▼1回戦

大久保 6－5 富士見西
本郷 4－4 春日部 2PTC1
上大久保 17－10 戸塚
喜沢 20－3 狭山西
吉川南 13－10 狭山東
蓮田 20－11 越谷北
朝霞五 17－14 川島
中野 不戦勝 羽生西

▼2回戦

大久保 14－7 本郷
喜沢 15－14 上大久保
吉川南 15－4 蓮田
中野 13－7 朝霞五

▼準決勝

喜沢 16－15 大久保
中野 10－9 吉川南

▼決勝

中野 13－5 喜沢

〈女子〉

▼1回戦

十二月田 22－1 松山

▼2回戦

榛松 21－4 十二月田
八潮三 不戦勝 三郷前川
八潮 24－7 新座三
中野 42－1 北本西
大久保 12－4 川口芝
戸塚 12－7 三郷栄
幸並 12－9 吉川中央
春日部 18－2 八潮四

▼3回戦

榛松 18－6 八潮三
八潮 13－12 中野
大久保 11－9 戸塚
幸並 12－8 春日部

▼準決勝

榛松 25－7 八潮
阪久保 10－5 幸並

▼決勝

榛松 11－2 大久保

東京都高校春季大会

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦

専大附 18－8 高島
小岩 47－3 白鷗
東大和 23－16 永山
砂川 22－15 武蔵村山
深川 21－18 世田谷工
新宿 27－10 佼成
大泉 40－13 小石川工
日野台 41－2 保谷
北多摩 12－10 久留米
明正 12－0 桜水商
東 26－9 鷺宮
大崎 23－7 修徳
清瀬 22－18 久留米西
東村山 12－0 明星学園

成城 31－4 大森東
葛飾野 19－14 早実
東海大菅生 24－18 科技学園
小金井北 16－9 田無
富士森 21－12 小金南
開成 19－12 広尾
江戸川 17－8 青山学院
立川 22－7 武蔵野北
福生 22－16 片倉
筑波大駒場 12－0 南葛飾
富士 17－7 豊多摩
城北学園 18－12 石神井
昭和一 21－9 山崎
東大和南 12－0 昭和
駒込 10－8 上野
井草 22－17 蒲田
学芸大附 20－3 安田学園
国分寺 26－4 武蔵村山東
五商 13－11 忠生
駒大高 30－17 本所
墨田川 16－14 目黒
八王子東 22－10 府中西
中大附 28－3 桜美林

▼2回戦

西 24－11 専大附
小岩 24－9 日大二
東大和 19－2 館
南多摩 27－22 砂川
深川 17－13 雪谷
新宿 23－20 大泉
日野台 32－7 南平
錦城 25－5 北多摩
明正 18－10 日南
東 14－9 大崎
清瀬 38－21 武蔵
東村山 18－15 調布北

成城 32－21 青山
葛飾野 19－11 芝工大附
東海大菅生 38－8 野津田
小金井北 21－12 富士森
開成 9－2 正則学園
江戸川 12－11 荻窪
立川 26－12 秋川
福生 23－18 拝島
筑波大駒場 25－13 江東工
富士 19－18 城北学園
昭和一 30－4 創価
東大和南 22－20 神代
城西 15－7 駒込
学芸大附 16－14 井草
三鷹 21－15 国分寺
日野 30－3 五商
駒大高 25－22 両国
早大学院 17－12 墨田川
八王子東 28－10 田無工
中大附 32－12 秋留台

▼3回戦

小岩 16－12 西
東大和 24－17 南多摩
深川 20－17 新宿
日野台 19－14 錦城
明正 17－15 東
清瀬 22－13 東村山
成城 26－9 葛飾野
小金井北 28－25 東海大菅生
江戸川 23－11 開成
立川 17－13 福生
筑波大駒場 16－14 富士
昭和一 16－14 東大和南
学芸大附 24－11 城西
日野 13－9 三鷹
駒大高 33－19 早大学院

中大附 27－12 八王子東

▼4回戦

小岩 22－13 東大和
日野台 24－11 深川
明正 16－15 清瀬
成城 26－8 小金井北
立川 22－9 江戸川
筑波大駒場 14－9 昭和一
日野 24－11 学芸大附
中大附 21－13 駒大高

▼5回戦

明星 32－10 小岩
拓大一 13－7 日野台
農大一 27－11 明正
成城 23－21 国立
東京 22－7 立川
府中 28－5 筑波大駒場
南野 20－19 日野
日体荏原 29－9 中大附

▼準々決勝

明星 27－6 拓大一
農大一 16－15 成城
東京 15－9 府中
日体荏原 31－9 南野

▼準決勝

明星 24－10 農大一
東京 21－16 日体荏原

▼3位決定戦

日体荏原 24－20 農大一

▼決勝

明星 21（9－10、12－2）12 東京

〈女子〉

▼1回戦

調布北 10－3 府中東

▼2回戦

白鴎 8－2 学芸大附
田無 20－12 国立
共立第二 21－1 館
本所 20－3 目黒
福生 11－10 調布北
東大和 31－4 武蔵
青山学院 28－1 三商
墨田川 不明 桜水商
清瀬 19－6 府中西
日野台 12－9 富士森
一商 10－9 広尾
国分寺 22－0 東海大菅生
桐朋 19－1 砂川
八雲 11－3 雪谷
小金井北 15－10 武蔵村山東
南野 16－2 武蔵野北
江戸川 12－0 農大一
文大杉並 37－7 大崎
五商 17－5 久留米
八王子東 24－2 武蔵野女
上野 9－2 園芸
日野 14－4 文華女
小平 不明 東大和南
小岩 12－0 荻窪
明星学園 不明 明泉鶴川
保谷 14－6 農業

▼3回戦

西 5－0 白鴎
共立第二 12－2 田無
富士 11－8 本所
東大和 18－7 福生
青山学院 11－5 墨田川
日野台 9－8 清瀬
井草 14－4 一商
桐朋 12－5 国分寺
日大二 12－11 八雲

南野 27－3 小金井北
文大杉並 25－6 江戸川
八王子東 16－7 五商
上野 8－6 蒲田
小平 10－7 日野
小岩 17－3 豊多摩
明星学園 18－10 保谷

▼4回戦
共立第二 8－7 西
富士 14－9 東大和
日野台 8－7 青山学院
桐朋 20－4 井草
南野 16－8 日大二
文大杉並 29－11 八王子東
小平 13－4 上野
明星学園 18－9 小岩

▼5回戦
江東商 21－3 共立第二
藤村女 14－4 富士
府中 20－4 日野台
石神井 13－9 桐朋
日体桜華 16－4 南野
文大杉並 23－10 神代
菊華 26－1 小平
佼成女 20－7 明星学園

▼準々決勝
江東商 14－8 藤村女
石神井 12－7 府中
文大杉並 21－11 日体桜華
菊華 14－12 佼成女

▼準決勝
江東商 16－13 石神井
文大杉並 20－12 菊華

▼3位決勝戦
菊華 11－9 石神井

▼決勝
文大杉並 21（10－7、11－9）16 江東商

群馬県中学校春季大会

（6月4日、11日／不明）

〈男子〉

▼1回戦
下仁田東 18－13 相生
藤岡南 21－5 南八幡
甘楽三 17－14 富岡西
下仁田西 16－12 甘楽三
矢中 21－12 藤岡北

▼2回戦
富岡南 26－6 下仁田東
藤岡南 23－14 甘楽三
富岡 17－10 下仁田西
富岡東 14－10 矢中

▼準決勝
富岡南 22－11 藤岡南
富岡 20－17 富岡東

▼決勝
富岡南 23（12－6、11－8）14 富岡

〈女子〉

▼1回戦
南八幡 21－1 高南
富岡南 16－6 富岡
矢中 9－7 相生
富岡東 18－5 富岡西

▼準決勝
南八幡 10－8 富岡南
富岡東 7－3 矢中

▼決勝
南八幡 10（3－4、7－4）8 富岡東

東海

全国高校総体岐阜県予選

（5月21、27、28日／岐阜南高ほか）

〈男子〉

▼予選トーナメントA組
高山工 21－19 大垣工
市岐阜商 24－6 高山工
岐阜北 26－16 大垣東
市岐阜商 27－9 岐阜北

▼予選トーナメントB組
大垣農 18－16 岐山
県岐阜商 24－7 大垣農
岐阜東 19－17 岐阜南
県岐阜商 19－17 岐阜東

▼予選トーナメントC組
中京商 23－11 可児工
岐阜西工 32－10 中京商
加納 12－10 可児
岐阜西工 30－13 加納

▼決勝リーグ
市岐阜商 11（3－3、8－2）5 県岐阜商
岐阜西工 27（12－5、15－5）10 県岐阜商
市岐阜商 16（8－2、8－4）6 岐阜西工

（順位）①市岐阜商②岐阜西工③県岐阜商

〈女子〉

▼リーグ戦
養老女商 13（7－4、6－3）7 高山
本巣 18（11－7、7－9）16 高山
養老女商 22（11－4、11－3）7 本巣

（順位）①養老女商②本巣③高山

第20回東海クラブ選手権

（5月28日／三重・鈴鹿市体育館）

〈男子1部〉

▼準決勝
大同ク 25－14 清商ク
本田ク 28－12 アシスト岐阜ク

▼3位決定戦
清商ク 26－13 アシスト岐阜ク

▼決勝
大同ク 20（8－8、12－8）16 本田ク

〈男子2部〉

▼準決勝
蒲郡ク 不戦勝
鵜ノ森ク 19－16 星陵ク

▼決勝
蒲郡ク 18（10－8、8－8）16 鵜ノ森ク

〈女子〉

▼準決勝
ジャスコあゆみク 不戦勝
名古屋ク 15－9 ポストク

▼決勝
ジャスコあゆみク 18（6－9、12－4）13 名古屋ク

三重県高校総体

（6月3日～5日／ジャスコ体育館）

〈男子〉

▼ブロック予選
○Aブロック1回戦
桑名工 14―13 四日市西
津東 31―2 津西
桑名 28―13 津工
○同2回戦
四日市工 31―11 桑名工
津東 14―12 桑名
○同3回戦
四日市工 15―11 津東
○Bブロック1回戦
桑名西 22―11 上野工
桑名北 15―4 高田
四日市中央工 23―14 川越
○同2回戦
桑名西 20―16 亀山
桑名北 15―10 四日市中央工
○同3回戦
桑名西 17―7 桑名北
○Cブロック1回戦
海星 23―21 尾鷲
四日市南 20―14 名張西
津 12―7 四日市四郷
○同2回戦
四日市 23―13 海星
津 16―15 四日市南
四日市 12―9 津
▼4～6位決定リーグ
津東 14―10 津
桑名北 20―14 津
桑名北 9―7 津東
▼決勝リーグ
四日市工 26―9 四日市
桑名西 21―14 四日市
四日市工 21―18 桑名西

〔順位〕①四日市工②桑名西③四日市

〈女子〉
▼ブロック予選
○Aブロック1回戦
桑名 13―5 桑名西
○同2回戦
暁 22―5 桑名
名張西 35―6 四郷
○同3回戦
暁 26―7 名張西
○Bブロック1回戦
四日市南 21―3 松阪女
四日市商 18―7 四日市
○同2回戦
津東 7―5 四日市南
川越 11―10 四日市商
○同3回戦
津東 18―9 川越
○Cブロック1回戦
尾鷲 14―5 津
上野 24―3 津西
○同2回戦
亀山 23―12 尾鷲
四日市西 23―6 上野
○同3回戦
四日市西 18―10 亀山
▼4～6位決定リーグ
亀山 11―9 名張西
亀山 14―10 川越
名張西 23―9 川越
▼決勝リーグ
暁 24―7 四日市西
津東 11―6 四日市西
暁 20―11 津東

〔順位〕①暁②津東③四日市西

北信越

第34回長野県高校総体

（6月3、4日／更埴市民体育館、戸倉町総合体育館）

〈男子〉
▼1回戦
野沢南 29―16 松本第一
松本美須々丘 25―10 北部
上田 27―10 北佐久農
田川 30―3 臼田
小諸 23―13 長野東
野沢北 20―9 諏訪清陵
坂城 37―5 上田千曲
▼2回戦
屋代 37―6 野沢南
上田 15―10 松本美須々丘
小諸 22―17 田川
坂城 32―18 野沢北
▼準決勝
屋代 10―9 上田
坂城 19―14 小諸
▼3位決定戦
上田 20―14 小諸
▼決勝
屋代 16（7―2、9―10）12 坂城

〈女子〉
▼1回戦
松本蟻ヶ崎 34―5 松本美須々丘
小諸商 20―7 小海
▼2回戦
佐久 46―7 松本蟻ヶ崎
田川 37―3 北佐久農
塩尻 26―18 臼田
屋代 29―6 小諸商
▼準決勝
佐久 26―7 田川
屋代 18―7 塩尻
▼3位決定戦
塩尻 20―14 田川
▼決勝
佐久 18（9―6、9―7）13 屋代

近畿

近畿高校奈良県予選

（4月29、30日、5月3日／生駒市総合体育館）

〈男子〉
▼1回戦
郡山 12―5 信貴ヶ丘
添上 51―3 桜井商
片桐 14―13 畝傍
▼2回戦
正強 21―7 郡山
高田東 14―8 橿原
奈良工 11―7 一条
生駒 24―8 富雄
添上 22―13 東大寺
広陵 11―9 天理
斑鳩 14―9 上牧
奈良 23―9 片桐
▼3回戦
正強 19―6 高田東
生駒 26―3 奈良工
添上 26―3 広陵
奈良 18―8 斑鳩

▼準決勝
正強25－5生駒
奈良11－10添上
▼3位決定戦
生駒13－12添上
▼決勝
正強18（10－3、8－6）9奈良
※正強は初優勝

〈女子〉
▼1回戦
添上11－3短大付
十津川11－7橿原
▼2回戦
添上10－5郡山
白藤21－2一条
富雄10－5片桐
生駒19－3十津川
▼準決勝
白藤9－3添上
生駒7－6富雄
▼決勝
白藤17（7－1、10－3）4生駒
※白藤は初優勝

第9回京都府高校選手権

（4月29、30日、5月3、4日／田辺公園グラウンド）

〈男子〉
▼1回戦
桃山15－12嵯峨野
堀川23－4両洋
向陽12－0洛陽工
久御山24－5伏見工
南八幡18－10洛東
山城15－8木津
▼2回戦
桂27－7桃山
洛西18－10北稜
京都商20－12東山
東宇治18－11堀川
西宇治28－4成章
城南22－9同志社
平安21－18洛星
北嵯峨15－12向陽
大谷22－8久御山
田辺15－13日吉丘
城陽23－22乙訓
洛北27－7鴨沂
東稜28－7南八幡
塔南23－8南治
洛水16－14西乙訓
京都西28－12山城
▼3回戦
桂21－12洛西
東宇治30－13京都商
西宇治11－4城南
北嵯峨35－17平安
大谷20－7田辺
洛北23－9城陽
東稜34－11塔南
京都西25－13洛水
▼準々決勝
桂23－11東宇治
北嵯峨21－11西宇治
洛北13－12大谷
京都西18－17東稜
▼準決勝
桂22－16北嵯峨
洛北14－12京都西
▼3位決定戦
北嵯峨19－14京都西
▼決勝
桂19（11－4、8－5）9洛北
※桂は初優勝

〈女子〉
▼1回戦
東稜15－13北嵯峨
光華18－9洛東
西乙訓11－7洛西
向陽12－11北稜
西京商21－8乙訓
西山21－8鴨沂
洛水34－5塔南
明徳商20－7田辺
嵯峨野12－0城南
桂15－2日吉丘
桃山13－9精華
南八幡9－7山城
▼2回戦
西宇治31－10東稜
光華10－8西乙訓
向陽14－6西京商
洛北13－10西山
東宇治18－9洛水
明徳商38－1嵯峨野
桃山22－5桂
京都女22－5南八幡
▼3回戦
西宇治30－7西乙訓
洛北9－6向陽
東宇治21－9明徳商
京都女20－14桃山
▼準決勝
西宇治21－7洛北
東宇治13－11京都女
▼3位決定戦
京都女10－8洛北
▼決勝
西宇治22（12－6、10－6）12東宇治
※西宇治は初優勝。

中国

第7回山口県学生春季リーグ戦

（5月3、4日／山口大）

▼リーグ戦
山口大医学部26－22宇部工高専
徳山大26－21徳山工高専
山口大本部23－13宇部工高専
徳山大32－15山口大医学部
山口大本部30－16徳山工高専
山口大本部22－15徳山大
徳山工高専23－21山口大医学部
徳山大39－20宇部工高専
山口大本部31－15山口大医学部
徳山工高専31－19宇部工高専
（順位）①山口大本部②徳山大③徳山工業高専④山口大医学部⑤宇部工業高専

第40回中国高校選手権

（5月13、14日／鳥取境港市民体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
岩陽（山口）21（10－5、11－4）9呉港（広島）
米子北（鳥取）19（9－6、10－8）14川本羽須美分（島根）

チーム	得点	前後半	得点	チーム
下松工（山口）	21	13－6 8－9	15	修道（広島）
境（鳥取）	21	11－6 10－7	13	岡山工（岡山）
下関中央工（山口）	32	16－11 16－4	15	江津（島根）
総社（岡山）	23	9－5 14－5	10	境港工（鳥取）
玉野光南（岡山）	18	9－5 9－9	14	飯南（島根）
呉昭和（広島）	19	11－5 8－3	8	米子東（鳥取）

▼2回戦

チーム	得点	前後半	得点	チーム
岩陽	30	15－5 15－1	6	米子北
下松工	25	13－8 12－5	13	境
下関中央工	21	10－7 11－9	16	総社
玉野光南	20	13－12 7－7	19	呉昭和

▼準決勝

チーム	得点	前後半	得点	チーム
下松工	14	5－6 9－7	13	岩陽
下関中央工	23	14－6 9－10	16	玉野光南

▼決勝

チーム	得点	前後半	得点	チーム
下松工	20	12－6 8－5	11	下関中央工

〈女子〉

▼1回戦

チーム	得点	前後半	得点	チーム
華陵（山口）	27	20－4 7－0	4	米子北（鳥取）
玉野光南（岡山）	20	9－8 11－3	11	安芸南（広島）
山陽女（広島）	36	16－2 20－5	7	浜田商（島根）
境（鳥取）	18	10－4 8－6	10	児島（岡山）
西大寺（岡山）	19	8－10 11－7	17	米子東（鳥取）
徳山商（山口）	30	11－9 19－6	15	江津（島根）
松江市女（島根）	13	6－6 7－3	9	米子南商（鳥取）
熊毛北（山口）	33	15－1 18－2	3	清水ヶ丘（広島）

▼2回戦

チーム	得点	前後半	得点	チーム
華陵	27	12－6 15－4	10	玉野光南
山陽女	19	8－9 11－5	14	境
徳山商	23	13－3 10－5	8	西大寺
熊毛北	26	10－5 16－3	8	松江市女

▼準決勝

チーム	得点	前後半	得点	チーム
山陽女	15	6－6 9－2	8	華陵
熊毛北	20	9－7 11－7	14	徳山商

▼決勝

チーム	得点	前後半	得点	チーム
山陽女	17	8－4 9－6	10	熊毛北

第34回（女子17回）中国選手権

（5月20、21日／岡山県体育館）

〈男子〉

▼1回戦

チーム	得点	得点	チーム
日新製鋼（広島）	33	14	下松ク（山口）
浜水ク（島根）	17	15	岡山大（岡山）
自衛隊呉（広島）	33	11	光南ク（岡山）
境港ク（鳥取）	25	11	くにびきク（島根）
倉吉ク（鳥取）	14	13	白桃ク（岡山）
山口県教員団（山口）	37	16	松江ク（島根）
岡山教員（岡山）	29	12	鳥取大（鳥取）
下関ク（山口）	29	16	マツダ（広島）

▼2回戦

チーム	得点	得点	チーム
日新製鋼	49	13	浜水ク
境港ク	39	27	自衛隊呉
山口県教員団	40	14	倉吉ク
岡山教員	29	28	下関ク

▼準決勝

チーム	得点	得点	チーム
日新製鋼	38	22	境港ク
山口県教員団	34	23	岡山教員

▼決勝

チーム	得点	前後半	得点	チーム
日新製鋼	38	23－9 15－11	20	山口県教員団

〈女子〉

▼1回戦

チーム	得点	得点	チーム
岡山ク（岡山）	19	14	山口ク（山口）
徳山ク（山口）	27	12	境港ク（鳥取）
岡山県短大（岡山）	23	15	松江ク（島根）

▼準決勝

チーム	得点	得点	チーム
広島ク（広島）	24	14	岡山ク
徳山ク	23	17	岡山県短大

▼決勝

チーム	得点	前後半	得点	チーム
広島ク	23	12－9 11－9	18	徳山ク

第28回岡山県高校総体

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦

チーム	得点	得点	チーム
朝日	20	13	津山
理科大附	17	6	福渡
津山工	7	2	大安寺
総社南	19	5	一宮
金川	24	5	操山
吉備	19	11	玉野
関西	24	4	邑久
青陵	13	5	高梁工
落合	14	5	落合

▼2回戦

チーム	得点	得点	チーム
朝日	15	12	理科大附
西大寺	18	4	津山工
倉敷工	8	4	総社南
天城	16	15	金川
吉備	23	13	備前東
関西	13	9	芳泉
青陵	10	8	矢掛
古城池	15	11	落合

▼3回戦

チーム	得点	得点	チーム
総社	28	7	朝日
児島	15	7	西大寺
東岡山工	17	5	倉敷工
天城	18	9	倉敷南
岡山工	6	5	吉備
倉敷商	19	11	関西
水島工	9	7	青陵
玉野光南	22	7	古城池

▼4回戦
総社 23-10 児島
東岡山工 17-10 天城
岡山工 18-14 倉敷商
玉野光南 24-17 水島工

▼準決勝
総社 21-12 東岡山工
玉野光南 17-10 岡山工

▼決勝
総社 17（7-9、10-11）13 玉野光南

〈女子〉

▼1回戦
一宮 19-7 真備
青陵 11-6 古城池
倉敷商 8-6 総社南
操山 17-5 備前東
津山商 12-0 津山東
津山 9-6 矢掛
玉野 17-5 朝日
金川 11-7 倉敷南
落合 16-10 芳泉

▼2回戦
一宮 9-5 青陵
天城 8-7 倉敷商
総社 15-11 操山
児島 22-4 津山
玉野 15-4 津山商
金川 9-7 落合

▼3回戦
西大寺 24-7 一宮
総社 17-8 天城
児島 22-10 玉野
玉野光南 24-7 金川

▼準決勝
西大寺 14-6 総社
玉野光南 16-7 児島

▼決勝
玉野光南 13（5-4、8-7）11 西大寺

九州

第18回鹿児島中学春季大会

（5月13、14日／隼人町体育館）

〈男子1部〉

▼予選リンクAパート
伊敷 5-4 鹿大附属
東谷山 17-8 鹿大附属
東谷山 11-10 伊敷

▼予選リンクBパート
谷山 14-6 国分
重富 9-5 国分
谷山 21-6 重富

▼決勝トーナメント1回戦
東谷山 11-9 重富
谷山 24-10 伊敷

▼決勝
谷山 24（12-3、12-6）9 東谷山

〈男子2部〉

▼リーグ戦
谷山 9-5 重富
国分 13-5 谷山
国分 11-3 重富

〈順位〉①国分②谷山③重富

〈女子〉

▼予選リンク
東谷山 6-3 伊敷
伊敷 12-6 鹿大附属
重富A 15-5 鹿大附属

▼決勝トーナメント1回戦
重富A 24-1 重富B
東谷山 20-5 重富B
重富A 22-3 鹿大附属
東谷山 12-7 伊敷

▼決勝
重富A 12（5-5、7-5）10 東谷山

第16回宮崎県高校総体

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
都城工 27-15 宮崎南
宮崎北 26-8 佐土原
日南工 18-13 鵬翔

▼2回戦
第一 21-15 都城工
都城西 24-9 延岡
宮崎工 27-4 日向工
小林工 36-9 西都商
泉ヶ丘 25-11 宮崎北
小林 20-9 都城商
妻 29-13 日南
宮崎西 36-9 日南工

▼3回戦
第一 21-15 都城西
小林工 17-14 宮崎工
泉ヶ丘 32-17 小林
宮崎西 35-16 妻

▼準決勝
第一 28-18 小林工
宮崎西 18-16 泉ヶ丘

▼決勝
第一 21（13-6、8-13）19 宮崎西

〈女子〉

▼1回戦
延岡 16-7 都城西

▼2回戦
本庄 23-1 延岡
小林 36-8 振徳商
泉ヶ丘 36-5 宮崎女
宮崎西 17-10 延岡商
宮崎商 35-13 西都商
延岡東 32-8 宮崎南
妻 18-9 鵬翔
小林商 40-8 都城商

▼3回戦
本庄 39-5 小林
宮崎西 11-9 泉ヶ丘
延岡東 20-16 宮崎商
小林商 33-6 妻

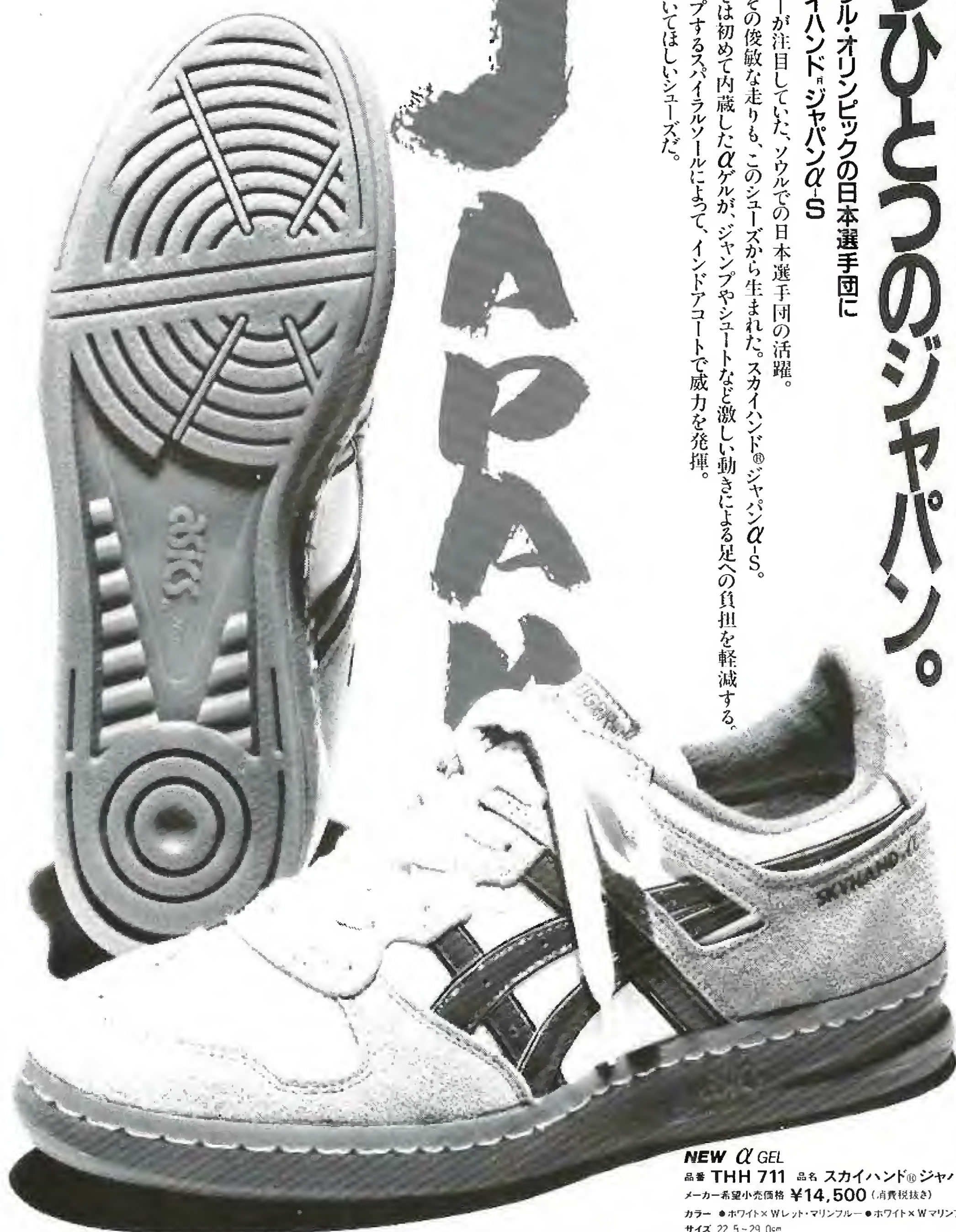
▼準決勝
本庄 34-5 宮崎西
小林商 18-11 延岡東

▼決勝
本庄 25（13-3、12-5）8 小林商

ソウルで活躍した、もうひとつのジャパン。

これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に採用されたスカイハンド®ジャパンα-S

すべてのハンドボーラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。
その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンド®ジャパンα-S。
ハンドボールシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。
吸いつくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。
これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。



NEW α GEL
品番 **THH 711** 品名 スカイハンド® ジャパンα-S
メーカー希望小売価格 **¥14,500**（消費税抜き）
カラー ●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レッド
サイズ 22.5～29.0cm

---

asics TIGER®

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL (078) 303-2233（専用）・(078) 303-3333（大代表）
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL (03) 624-1814（専用）・(03) 624-2221（大代表）
■ Rは㈱アシックスの登録商標です

株式会社アシックス

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二八八号
昭和四十年六月[illegible]日
第三種郵便物認可
平成一年七月二十六日 印刷
平成一年八月一日 発行
東京都渋谷[illegible]南一ー一ー一
電話 代表[illegible]）二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）